

2024 年卒  
Vol. 8

## 6 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2024 学生モニター調査結果 (2023 年 6 月発行)

2024 年卒業予定者の採用面接が今月 1 日に正式に解禁され、就職戦線は山場を迎えている。コロナ禍からの経済回復が進み、企業の採用意欲が高まる中で、内定率はどのように変化しただろうか。6 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況を調査した。過去の 6 月調査結果との比較も交えながら、全体的な活動状況を確認したい。

### 1. 6 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 81.3%。前年同期実績 (76.9%) を 4.4 ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の 58.1%。継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて 42.0%

### 2. 内定を得た企業の業界

- 「情報処理・ソフトウェア」に内定が集中、文理男女とも 3 割超。「銀行」の順位が上昇

### 3. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は 23.9 社。前年同期調査 (26.4 社) を 2.5 社下回る

### 4. 選考試験の受験状況

- ES 提出社数 (平均 13.3 社)、面接社数 (8.2 社) とともに前年より減少。ただし最終面接は増加
- 面接形式は依然 WEB 主流も、最終面接は「対面」が 6 割強に (67.0%)

### 5. 就職活動継続学生の動向

- 選考中の企業数は平均 2.4 社。これから受験する企業は 1.8 社
- 今後の方針、未内定者は「新たな企業を探しながら、幅広く企業を広げていく」
- 「規模にこだわらずに活動」する学生が 46.7%。5 月調査より 10 ポイント以上増

### 6. 未内定者の見通し

- 未内定者の約 7 割 (69.8%) は「内定の見通しが立っていない」

### 7. 内定保持学生の未決定理由

- 「本命の企業がまだ選考中」が最多。「複数内定で優劣つけがたい」が前年より増加

### 8. インターンシップ等 (※) 参加企業の本選考への応募と内定

- インターン参加企業の本選考への応募は 87.1%。応募者の 72.2% が内定獲得。前年より増加
- 本選考への応募理由「プログラムを通じて志望度が高まった」(75.4%) が圧倒的に高い

※「インターンシップ (就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1 日以内のプログラムも含めて調査  
※「内定」には、内々定を含む

## 調査概要

調査対象 : 2024 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)  
回答者数 : 1,221 人 (文系男子 377 人、文系女子 366 人、理系男子 327 人、理系女子 151 人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2023 年 6 月 1 日~5 日  
サンプリング : キャリタス就活 2024 学生モニター

### 1. 6月1日現在の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は81.3%。先月調査(5月1日、70.2%)からの1カ月間で11.1ポイント上昇し、前年実績(76.9%)を4.4ポイント上回った。今期は序盤から高い内定率を記録。高水準で推移した前年(23年卒)をさらに上回るペースで進行し、選考解禁のこのタイミングで8割台をマークした。ただ、4月以降、前年同月との差は徐々に縮まってきている(6.4ポイント差→5.2ポイント差→4.4ポイント差)。

この後、就職戦線は事実上の後半戦へと移っていく。前半戦は内定率の高さが目立ったが、ここから先どう推移していくのか注目される。

現時点の内定率は男子学生よりも女子学生の方がやや高く、理系女子83.4%、文系女子82.2%の順。

#### <6月1日現在の内定状況>

\*「内定」には、内々定を含む

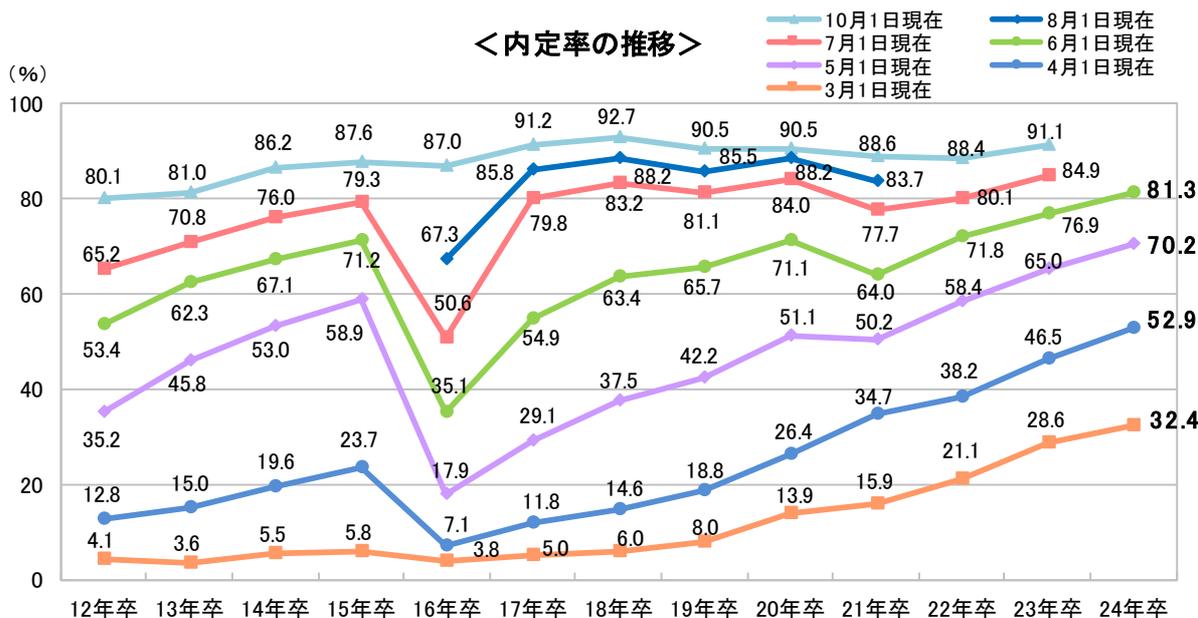
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		81.3 (76.9)	79.6 (73.6)	82.2 (76.5)	81.3 (80.1)	83.4 (80.7)
内定なし		18.7 (23.1)	20.4 (26.4)	17.8 (23.5)	18.7 (19.9)	16.6 (19.3)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	61.9 (63.1)	52.7 (54.6)	54.2 (55.8)	80.1 (76.1)	64.3 (76.1)
	活動は終了したが複数内定保持	9.0 (6.9)	10.0 (9.5)	11.6 (7.1)	5.6 (4.6)	7.1 (4.4)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.5 (0.6)	0.0 (0.3)	0.3 (0.7)	0.8 (0.8)	1.6 (0.9)
	就職活動継続	28.6 (29.4)	37.3 (35.6)	33.9 (36.4)	13.5 (18.5)	27.0 (18.6)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.3 (2.4)	2.3 (2.4)	2.5 (2.4)	2.3 (2.4)	2.4 (2.6)

(社)

※ ( ) 内は前年(6月1日現在)の数値

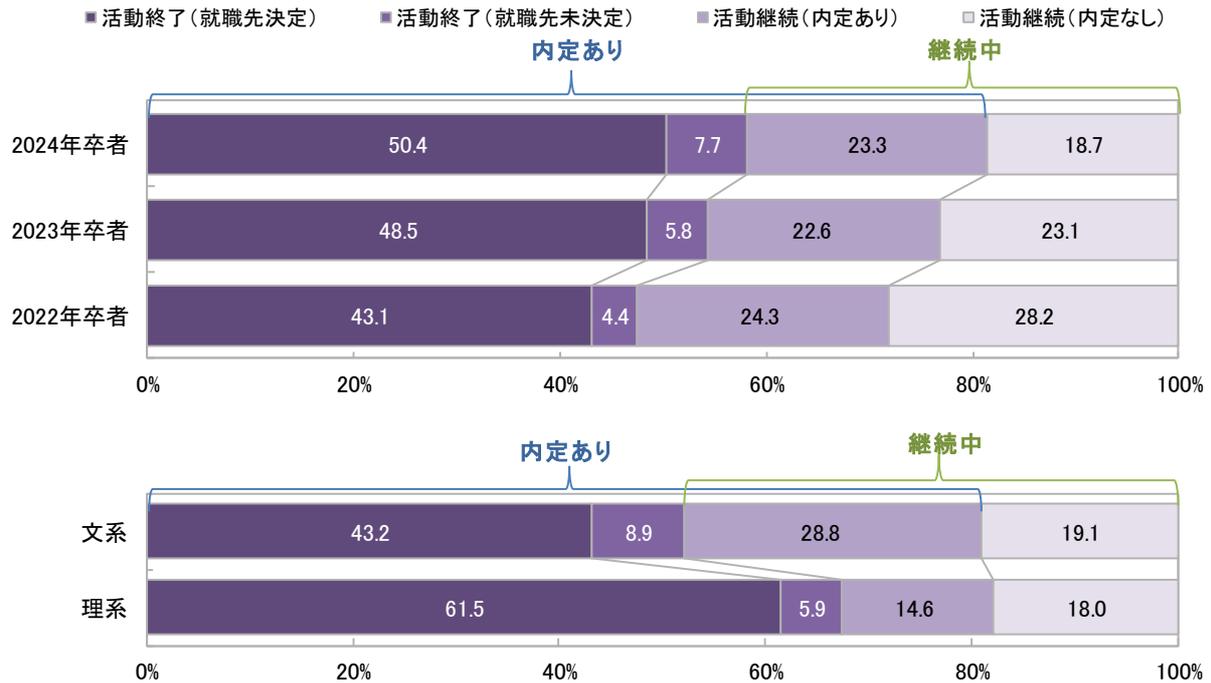


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~24年卒は6月 ※15年卒以前と22年卒以降は8月のデータはなし

回答者全員を分母に活動状況の分布を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 50.4%。複数内定を保留しているなど未決定である者(7.7%)を合わせると、終了者は 58.1%となる。内定率の上昇に伴い就職先決定者の割合は増加したが、同時に、内定を得たものの決めきれない学生の割合も増えた。

活動継続者は「内定あり」(23.3%)、「内定なし」(18.7%)を合わせて 42.0%。文系において高く、内定保持者も含め文系学生の半数近く(計 47.9%)が継続中と回答した(理系は同 32.6%)。

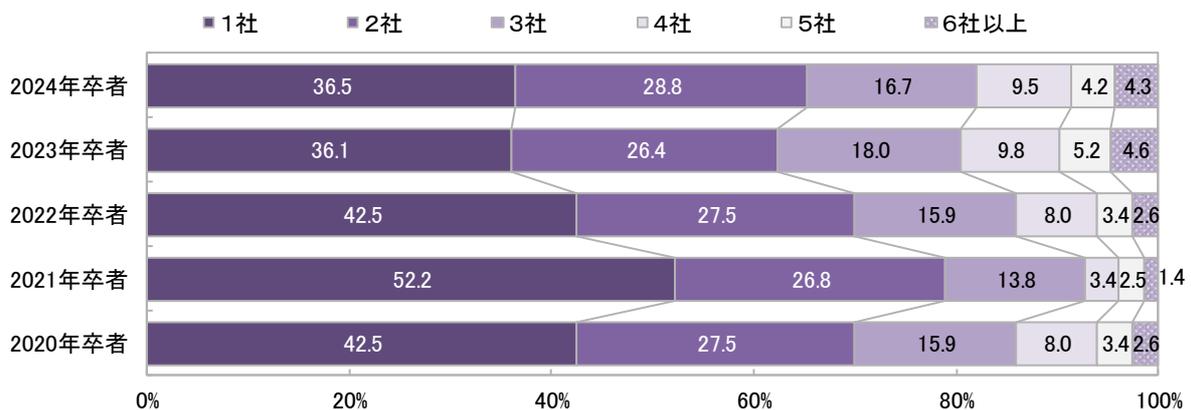
### <活動状況の分布>



内定を得た学生一人あたりの内定取得社数を詳しく見てみる。「1社」という学生は3割台にとどまり(36.5%)、前年と同様に内定取得者の6割以上が複数の企業から内定を得ている。

コロナ禍が始まった年に就職活動をした2021年卒者は「1社」という回答が半数を超えていたが(52.2%)、企業の採用意欲の回復に伴い、複数内定が大半を占めるようになった。企業側から見れば内定辞退のリスクが高まり、内定後のフォローの重要性が増している。

### <6月時点の内定社数の内訳>



## 2. 内定を得た企業の業界

6月1日現在で内定を得た学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。5月調査までに引き続き「情報処理・ソフトウェア」(33.9%)が最多。文理男女のいずれにおいても3割を超え、属性に関わらず多くの内定が出ている様子がわかる。

「銀行」が前年の15位から5位へと大きく上昇しているのが目を引くが、志望者の増加に加え、内定出しのタイミングが早まったことも影響していると見られる。

### <内定を得た業界(上位10業界)>

※6つまで選択 (%)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 33.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 36.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 30.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 35.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 32.5
2	建設・住宅・不動産 ② 16.4	銀行 16.3	その他サービス 17.9	電子・電機 30.5	建設・住宅・不動産 23.0
3	電子・電機 ④ 13.4	専門店 14.7	建設・住宅・不動産 16.6	自動車・輸送用機器 17.7	水産・食品 22.2
4	調査・コンサルタント ③ 12.8	建設・住宅・不動産 14.3	専門店 13.6	素材・化学 16.2	人材サービス・人材紹介・人材派遣 18.3
5	銀行 ⑤ 10.4	調査・コンサルタント 13.7	調査・コンサルタント 13.3	建設・住宅・不動産 15.4	素材・化学 14.3
6	人材サービス・人材紹介・人材派遣 ⑥ 10.1	運輸・倉庫 12.3	銀行 12.6	機械・プラントエンジニアリング 12.8	調査・コンサルタント 13.5
7	専門店 ⑭ 9.3	商社(専門) 10.0	保険 11.3	調査・コンサルタント 10.9	医薬品・医療関連・化粧品 10.3
8	その他サービス ⑤ 9.2	その他サービス 7.3	人材サービス・人材紹介・人材派遣 11.3	人材サービス・人材紹介・人材派遣 9.0	電子・電機 10.3
9	自動車・輸送用機器 ⑦ 8.8	機械・プラントエンジニアリング 7.0	商社(専門) 9.3	水産・食品 8.3	機械・プラントエンジニアリング 7.9
10	商社(専門) ⑦ 7.9	情報・インターネットサービス 証券・投信・投資顧問 7.0	情報・インターネットサービス 9.3	運輸・倉庫 6.8	情報・インターネットサービス 6.3

※○の中の数字は前年同期調査の順位

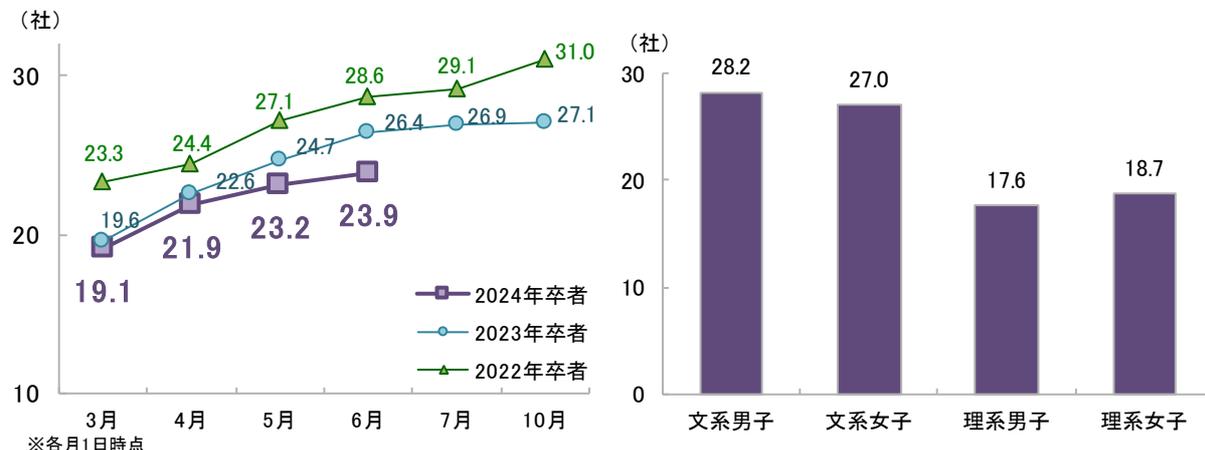
※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

## 3. エントリー状況

6月1日時点での就職活動量について確認してみよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は23.9社で、前年同期(26.4社)を2.5社下回る。2022年卒者は28.6社だったので、この2年で5社近く減少した。エントリー企業の絞り込みが進んでいる様子がわかる。文理男女別に見ると、理系は男女とも20社未満であるのに対し、文系は10社ほど多く、文系男子28.2社、文系女子27.0社。

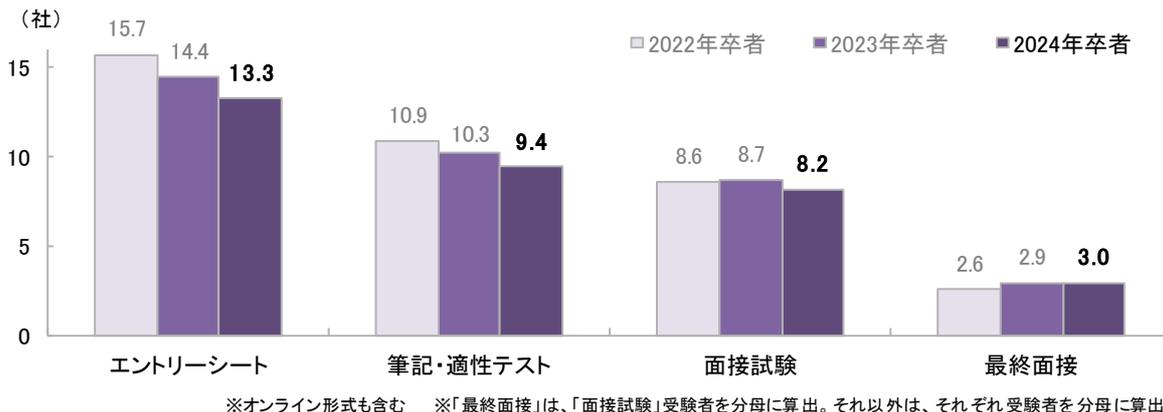
### <エントリー社数>



#### 4. 選考試験の受験状況

選考試験についても受験状況を確認したい。エントリーシート (ES) の提出社数の平均は 13.3 社で、前年同期 (14.4 社) を 1.1 社下回る。筆記試験を受けた社数も前年同期を下回っている (10.3 社→9.4 社)。面接試験も微減したが (8.7 社→8.2 社)、最終面接に限ると、3.0 社と前年 (2.9 社) と同水準。早期化で次の選考ステップに進むタイミングが早まっているだけでなく、通過率も高まっていると考えられる。

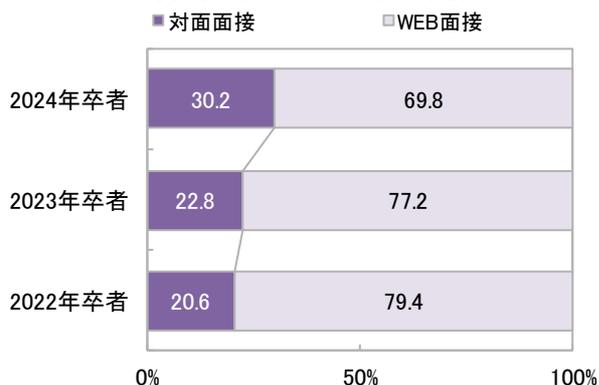
＜選考試験の受験社数＞



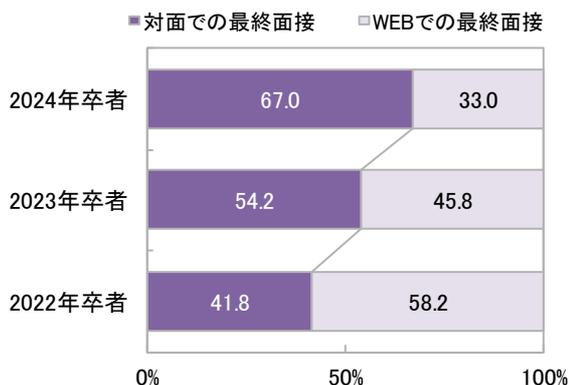
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシートを提出した	13.3	14.4	15.4	14.8	10.0	11.1
筆記・適性テストを受けた	9.4	10.3	10.7	10.1	7.8	7.7
面接試験を受けた	8.2	8.7	9.3	9.0	6.6	7.0
最終面接を受けた	3.0	2.9	3.0	3.1	2.9	2.8

これまでに受けた面接試験について対面と WEB の割合を尋ねると、対面での面接が約 3 割 (30.2%) であるのに対し、WEB 面接が約 7 割 (69.8%)。前年と比べると対面の比率がやや増加したものの、依然として WEB が主流だ。しかし、最終面接に限ると対面が 6 割強を占める (67.0%)。3 カ年で見ると、対面の割合が大幅に増加しているのがわかる (41.8%→54.2%→67.0%)。初期の面接はオンラインで効率的に実施し、採用の可否を決める最終局面では対面で実施するなど、選考のフェーズや目的に応じて使い分けをする企業が多いことが読み取れる。

＜対面面接とWEB面接の割合＞



＜最終面接の受験形式＞



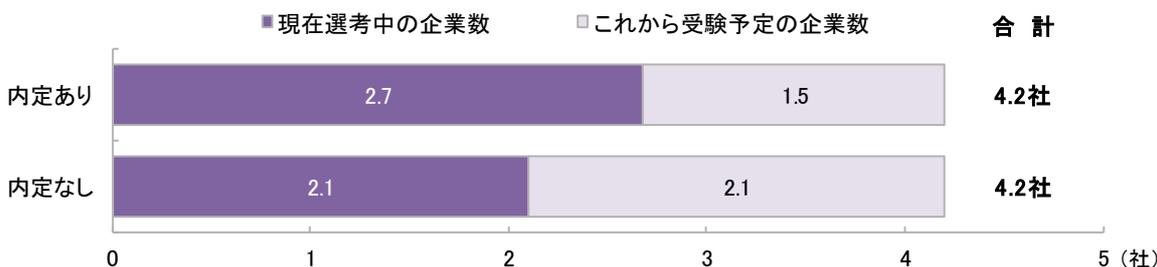
### 5. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の 42.0%）の動向を確認したい。

現在選考中の企業数は平均 2.4 社で、これから受験予定の企業数は 1.8 社。いわゆる持ち駒企業は合わせて 4.2 社。これを内定の有無別に集計してみると、未内定の学生はこれから受験予定の企業数が多いことがわかる（内定なし学生：2.1 社、内定あり学生：1.5 社）。

#### <持ち駒企業数>

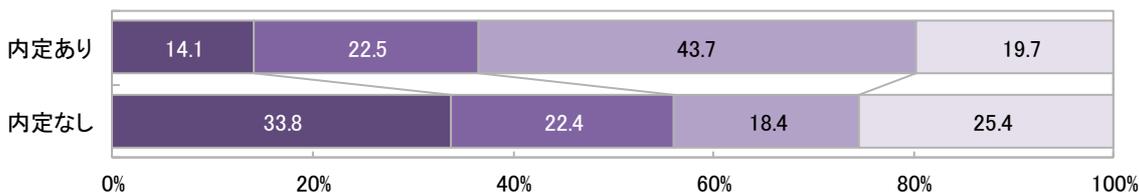
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	2.4	2.7	2.9	2.8	1.5	1.4
これから受験予定の企業数	1.8	1.7	2.3	1.8	1.3	0.9



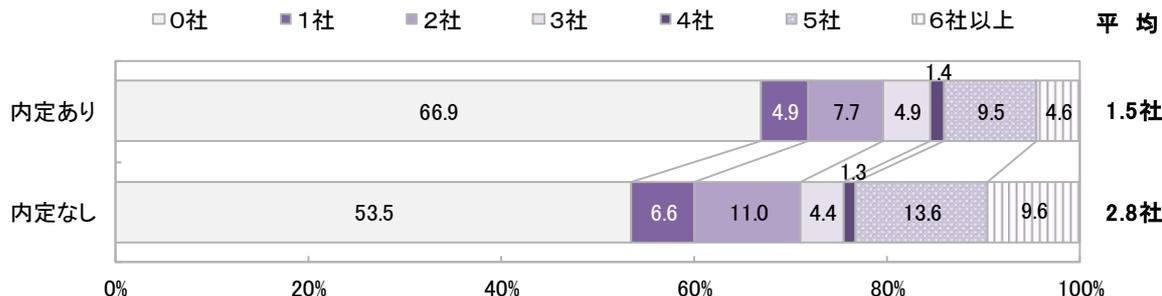
今後の活動方針についても、内定の有無で違いが見られる。内定を持ちながら活動している学生は、「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が 4 割超を占めているが（43.7%）、内定なしの学生は 2 割未満にとどまる（18.4%）。その分「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく」という回答が最も多い（33.8%）。今後のエントリー予定社数も未内定者で多く、積極的に受験企業を増やそうとする意欲が感じられる。

#### <今後の就職活動の方針・戦略>

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく
- これまで興味をもった企業（エントリーした企業）を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する

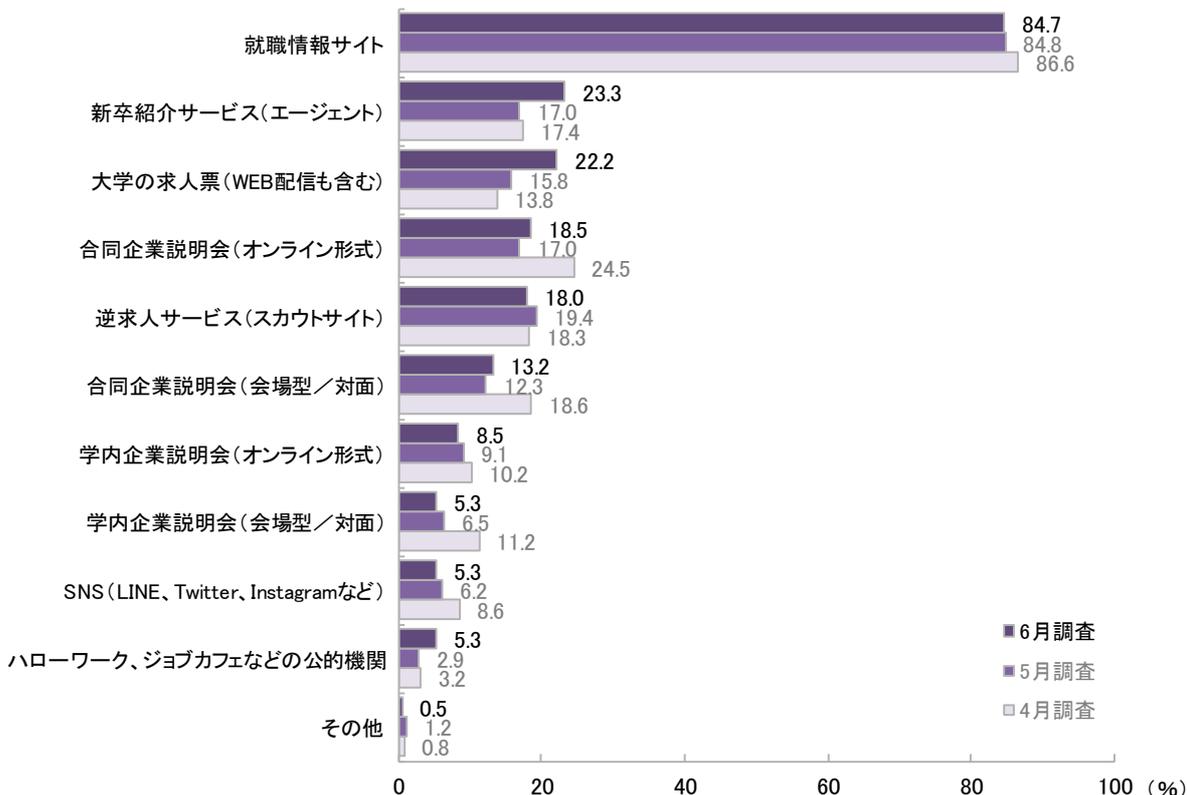


#### <今後のエントリー予定社数>



新たな企業を探す手段（ツール）を見てみると、「就職情報サイト」が8割強と突出（84.7%）。ここに「新卒紹介サービス（エージェント）」（23.3%）と「大学の求人票」（22.2%）が続く。就職戦線が大きな山場を越えつつある中で、情報サイトで広く最新の情報を得ながらも、エージェントや大学等、様々な手段を活用して企業を探そうとする学生の様子が見て取れる。

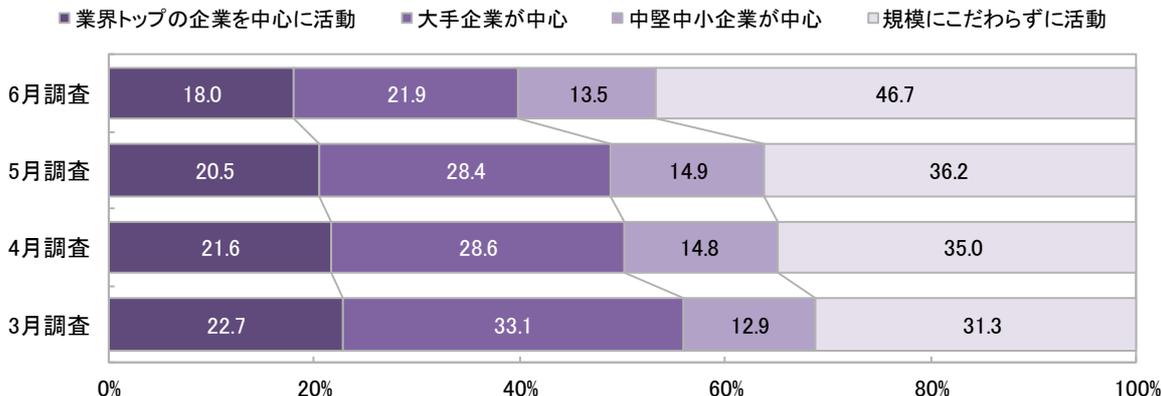
＜新たな企業を探す手段＞



就職活動の中心としている企業規模について、3月調査からの推移をまとめた。

採用広報開始直後の3月調査時点では、半数強の学生が業界トップや大手企業を目指していたが（計55.8%）、6月調査では4割未満まで縮小（計39.9%）。代わりに「規模にこだわらずに活動」する学生は前月より10ポイント以上増加し、6月調査では半数近くまで達した（46.7%）。ここから先、視野を広げる学生が増えることで、企業規模にとらわれずに活動する動きはさらに増えると思われる。

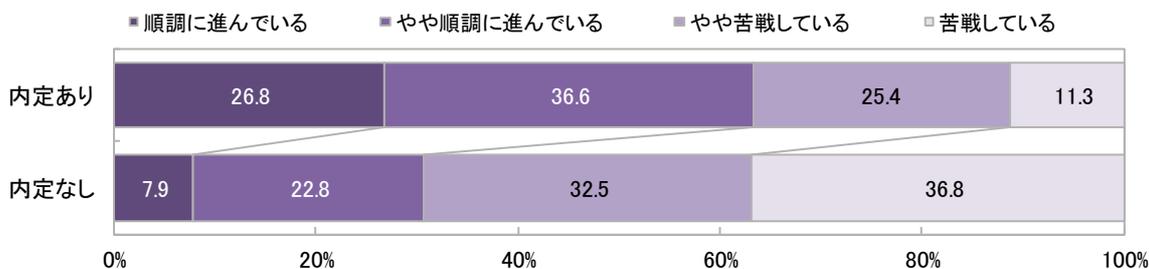
＜就職活動の中心としている企業規模＞



継続学生に就職活動の進捗度合を尋ね、内定の有無別に集計した。「順調」「やや順調」という回答は「内定あり」の学生で 6 割超 (計 63.4%) であるのに対し、「内定なし」の学生は 3 割 (計 30.7%)。30 ポイント以上の差がみられる。未内定者において、より厳しさを感じている様子がうかがえる。

一方、内定があっても 3 割強の学生は「苦戦」と回答 (計 36.7%)。志望度の高い企業にはなかなか受からない、といった声などが寄せられた。

### <就職活動の進捗度合>



#### ■「順調に進んでいる」と思う理由

- 行きたい企業のうちの一つから内定はもらえたから。 <文系男子>
- インターンシップなどに行って雰囲気をつかんだから。 <理系男子>
- 入っても良いと思える企業から内定を得たうえで、第一志望群の面接が順調に進んでいる。 <文系女子>
- 落ちる企業も多々あるが、緊張しすぎず選考を受けることができているため。 <理系女子>

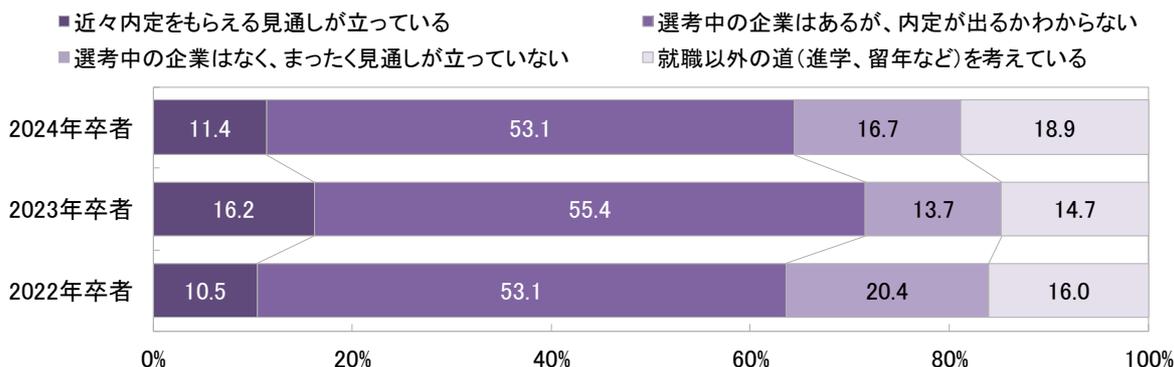
#### ■「苦戦している」と思う理由

- 最終面接までは行っても、内定までたどりつけていないから。 <理系男子>
- 内定は得たが、志望度がすごく高いわけではない。志望度の高い企業はかなり落ちてしまった。 <文系男子>
- 4 年生になるあたりで志望業界が変わった。周りと比べて遅れているのではないかと感じている。 <文系女子>
- 最終面接に 5 社進んで 1 社からしか内定を得られていないから。 <文系男子>
- 第一志望だった業界の企業はすべて落ちてしまい、第二志望の業界を中心に受けているため、就活が長引いている。 <理系女子>

## 6. 未内定者の見通し

未内定の学生には内定獲得の見通しを尋ねた。「近々内定をもらえる見通しが立っている」という回答は 1 割程度にとどまり (11.4%)、前年同期 (16.2%) を下回る。最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定が出るかわからない」(53.1%) で、ここに「選考中の企業はなく、まったく見通しが立っていない」(16.7%) を足し合わせると 69.8% になり、未内定者の約 7 割が先の見えない状況にあるようだ。

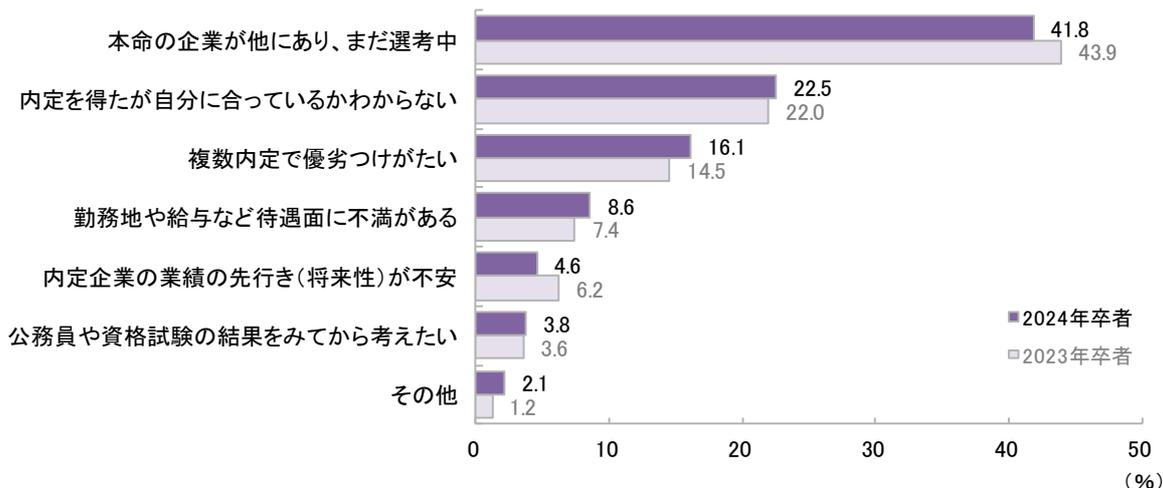
### <未内定者が内定を得る見通し>



## 7. 内定保持学生の未決定理由

内定取得学生のうち就職先を決めていない者（モニター全体の 31.0%）にその理由を尋ねると、最も多いのが「本命の企業が他にあり、まだ選考中」という回答で（41.8%）、本命企業の結果次第という状況だ。「自分に合っているかわからない」（22.5%）、「複数内定で優劣つけがたい」（16.1%）と続き、内定は得たものの承諾を迷う学生が一定数いることがわかる。企業には、こうした学生の不安を解消し、意思決定を後押しするための工夫も必要と言える。

＜内定保持者が就職先を決めていない理由＞



### ■志望度が上がった、嬉しかった内定者フォロー

- 内定後に企業への不安があり面談の機会をいただきたいと相談したところ、迅速な対応でスケジュールを組んでくださり、承諾期間内に決められた。 <理系男子>
- 食事に連れて行ってもらい、そこでどんなことを期待して内定を出したかなど伝えられた。相手の思いを知ることができ、嬉しかった。 <文系男子>
- 対面でのオフィスツアー、内々定者同士の懇談会、詳しい選考に対してのフィードバック。また OB・OG 訪問をした方が、おめでとうのメッセージと共に質問を聞いてくださったこと。 <文系女子>
- 選考のフィードバックや、年齢の近い先輩社員と話す機会があったおかげで、入社後の未来を想像できた。 <文系男子>
- 先輩社員の暮らしや事業所の環境、福利厚生、会社の今後の見通し等について説明されたこと。 <理系男子>
- 本来は勤務地が未定だったが、希望勤務地になると連絡をもらった。 <理系男子>
- 保留したい旨を伝えた際に、悔いのないように就活を続けてほしいと言われ、嬉しく思い、志望度が上がった。 <理系女子>

### ■志望度が下がった、不快に感じた内定者フォロー

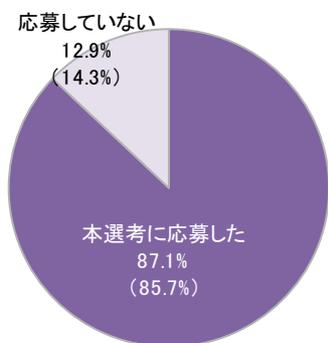
- あまりアフターフォローがなかったので、入社意欲がなくなりました。 <文系女子>
- 承諾延長を願い出た際、「君の後の人もいるから早くして」と言われた。自分じゃなくてもいいんだと思った。 <文系男子>
- 他業界のことを下げて、自社に入社しろという風にそれとなく話してきたこと。 <理系男子>
- 内定承諾期限内に頻りに電話があり、その都度近況や志望度の確認があった。 <文系女子>
- 連絡の時間が遅いと、その時間まで働かなければいけないのかと思えて、入社意欲が下がった。 <理系男子>
- 内定後の対面イベントで交通費は出ないと言われた。実質地方勢は来るなと言われた気がした。 <文系女子>

### 8. インターンシップ等参加企業の本選考への応募と内定

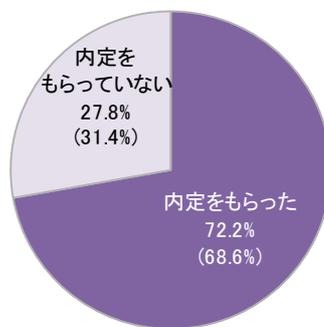
インターンシップ等プログラムへの参加経験がある学生に、参加企業への本選考応募と参加企業からの内定の有無を尋ねた。「本選考に応募した」との回答は8割強(87.1%)で、大半が応募経験を持つ。本選考応募社数の平均は5.9社で、参加社数(11.5社)の約半数。本選考応募者のうち実際に内定をもらった経験を持つ学生の割合は7割を超え(72.2%)、前年調査(68.6%)を上回る。内定社数の平均は2.1社で、複数の参加企業から内定を得る者も少なくない。

本選考に応募した理由を尋ねると、「プログラムへの参加を通じて、志望度が高まった」が7割強に上り(75.4%)、圧倒的に高い。参加したことで企業理解が深まり、就職先として意識するケースが多いことが表れている。次いで「早期選考だった」(55.5%)、「プログラム参加学生の優遇があった」(36.5%)が続き、インターンシップ等のプログラムに参加した学生を本選考へつなげる企業の動きが恒常化していることが表れている。

＜インターン等参加企業の本選考への応募＞



＜インターン等参加企業からの内定＞



※インターンシップ等参加経験者が回答(1日以内のプログラムも含む)  
※( )内は前年同月調査の数値

※インターンシップ等参加企業の本選考応募者が回答

	インターン等参加社数	プレエントリー社数	本選考応募社数	内定社数
2024年卒者	11.5社	8.8社	5.9社	2.1社
2023年卒者	12.1社	9.2社	6.2社	2.2社

※それぞれ、経験者を分母に平均社数を算出

### ＜インターンシップ等参加企業の本選考に応募した理由＞

